口頭発表 | 4. 形態・生理

形態・生理

座長:本田 和久(神戸大院農)、奈良 英利(石巻専修大)、村井 篤嗣(名大院生命農)
Thu. Sep 19, 2019 9:30 AM - 11:10 AM 第V会場 (６番講義室)
V-19-01～V-19-04：本田 和久
V-19-05～V-19-07：奈良 英利
V-19-08～V-19-10：村井 篤嗣

10:00 AM - 10:10 AM

[V-19-04]カーフスターターへのクラフトパルプ配合が子牛のグルカゴン様ペプチド2分泌に及ぼす影響

*稲生 雄大[1]、黒須 一博[2]、安川 結夏子[3]、蓮沼 俊哉[4]、飯島 乃莉美[5]、布野 秀忠[6]、西村 慶子[7]、櫛引 史郎[8]、川嶋 賢二[9]、小櫃 剛人[1]、杉野 利久[1] (1. 広島大院生物圏、2. 日本製紙総合研、3. 埼玉農技研、4. 富山畜研、5. 山梨酪技セ、6. 島根畜技セ、7. 宮崎畜試、8. 農研機構畜産部門、9. 千葉畜総研)

【目的】消化管上皮発達を促進させるグルカゴン様ペプチド2（ GLP-2）は，可消化繊維摂取により分泌が促進される．本試験は，可消化繊維含量の高いクラフトパルプ（ KP）のカーフスターター（ CS）への配合が，血漿GLP-2濃度に及ぼす影響を検討した．【方法】ホルスタイン雌子牛25頭を供試し，代用乳を1日2回等分給与し，７週齢で離乳させた． KPを乾物中0%（ CON区）あるいは12.3%（ KP区）含む CSを１週齢時から自由採食させる２処理区を設けた．乾草は1週齢から自由採食させた． CON区および KP区の CS中 NDF含量はそれぞれ16.4および 22.6 %となるように原料を調整した．4，14，21，35，49，70および91日齢に採血し，血漿 GLP-2濃度を測定した．【結果】代用乳および CSの乾物摂取量（ DMI）は処理区間に差は見られなかったが， 乾草のDMIは KP区で CON区と比較し低く推移した．一方で， NDF摂取量は56日齢から84日齢にかけて， KP区がCON区と比較し高値を示した．体重および日増体は処理区間に差は見られなかった．血漿 GLP-2濃度は， KP区がCON区と比較し高値を示した．これらのことから， CSへの KP配合は， NDF摂取量を増加させ，これが GLP-2分泌を促進させる可能性が示された．

©Japanese Society of Animal Science